

市民環境大学OB会 ニュースレター



第4号 2015年9月17日 発行

黒川清流公園 8月のくめぎ

「『日野の環境と地名』を上野さん講演！」

6月の定例OB会において、かねてから要望されていた上野さだ子さんによる日野市の環境と地名に関する講演が行われました。上野さんは40年前に日野市に生まれ、それ以来長きにわたり専門である古文書の研究を続けて来られ、今回の資料として使用された日野市郷土資料館講座「村絵図を楽しむ」シリーズなどを継続出版されています。また、地名についても無形の文化財ということで造詣が深く、「日野市七生地区の地名と昭和の高幡」や「旧桑田村の地名」を出版されています。上野さんによれば、日野市では昭和40年に小字名が廃止され、その後の区画整理で地名が日野台1～5丁目というようにデジタル化されてきているとのこと、昔からあった貴重な地名が次々消滅していくのは大変残念なことです。

今回は「日野の環境と地名」というテーマで、「村絵図を楽しむ」シリーズの第6巻落川に掲載されている村絵図を使って、多摩川と浅川が合流する落川地区では幾度となく繰り返された洪水という環境の影響により村が大きく変わってきた歴史を解説されました。例として取り上げられた落川地区の村絵図には川、街道、田、用水、屋敷、高札場のほか浅川洪水による川欠口などが詳しく描かれています。この地域では洪水という環境変動で何回も田畑が流され、苦勞してきた先人たちの歴史が村絵図から読み取れるという話は大変興味深く感じられました。



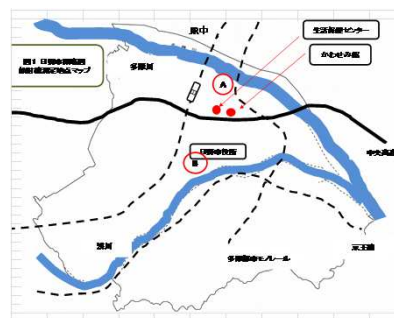
日野市郷土資料館講座 村絵図を楽しむシリーズの一部

「日野市内空間放射能測定3年間の成果まとまる！」

2011年の東日本大震災により発生した福島第一原発事故により、多量の放射性物質(セシウム137、ヨウ素131)が飛散しました。当OB会においても、事故1年後の2012年3月から有志により測定を開始しました。測定器は日野市測定と同型の簡易放射線測定器を用い、測定場所は低地の多摩川沿い付近のA地区、高地の日野市役所周辺のB地区の合計13か所を選定し、隔月で測定を継続してきました。

測定期間が今年2月で3年を経過したため、3年間の結果をまとめることになり、副会長の河原さん、佐山さんなどが中心となって報告書としてまとめられました。

測定開始直後の2012年3月は0.07～0.11 μ Sv/h程度測定されましたが、その後は0.06～0.08 μ Sv/hで推移しています。(詳細は報告書参照ください。) なお、本報告書は環境情報センターの年次報告書にも掲載される予定です。



日野市内測定地点マップ